

科目名	行動経済学 I Behavioral Economics I						
科目担当者	萩原 駿史 HAGIHARA Toshifumi						
単位数	2	配当年次	2年	授業形態	講義	開講学期	前期
履修学部・学科 [区分]	経営学部・経営学科 [専門教育科目 専門科目]					ディプロマポリシーとの関連	(2)(4)
授業の概要	<p>行動経済学 I では、人の心理や行動を経済学から捉える行動経済学をテーマとして取り上げて解説していきます。</p> <p>主に、行動経済学の基礎的考え、限定合理性、ヒューリスティクスとバイアス、情報の不完全性の順で解説をします。</p> <p>具体的には、第 2～3 回で経済学では人の選択をどのように捉えているか、第 4～7 回で現実の人は常には合理的に選択できていない事例、第 8～12 回で現実の人はどのように選択の評価を行っているか、第 13～14 回で情報が不完全である場合の人の選択の解説を行います。</p> <p>授業では、テキストを用いず、スライドを中心に進めていきます。</p>						
授業の到達目標	<p>① 行動経済学と標準的な経済学で前提とする個人の違いを理解できるようになる。</p> <p>② 人が合理的に振舞えない事例とその原因を理解できるようになる。</p> <p>③ 実社会における人の意思決定の方法とそれによる問題を理解できるようになる。</p> <p>④ 情報が非対称であることで生じる市場の失敗を理解できるようになる。</p>						
授業計画・内容	1	授業の進め方					
	2	行動経済学の成り立ち					
	3	選好と効用					
	4	限定合理性 (1) モンティホールのジレンマ					
	5	限定合理性 (2) 平均への回帰					
	6	限定合理性 (3) メンタルアカウンティング					
	7	限定合理性 (4) サンクコスト効果					
	8	ヒューリスティクスとバイアス (1) システム 1 とシステム 2					
	9	ヒューリスティクスとバイアス (2) 利用可能性ヒューリスティクス					
	10	ヒューリスティクスとバイアス (3) 代表性ヒューリスティクス					
	11	ヒューリスティクスとバイアス (4) アンカリング					
	12	ヒューリスティクスとバイアス (5) フレーミング					
	13	情報の非対称性 (1) レモン市場とモラルハザード					
	14	情報の非対称性 (2) シグナリング					
	15	まとめ					
授業外学修 (事前学修)	各回の最後に説明する次回のテーマについて、自身の経験や社会での例を考えてください。また、経済学的な見方を養うためにも、日頃から新聞や雑誌に目を通して社会の動きに注視しておくことが望ましいです。(毎週 2 時間程度)						
授業外学修 (事後学修)	講義した内容の復習をしっかりと行ってください。講義で扱った理論や事例を実社会に照らし合わせて考えてみることで知識の定着や理解の深まりにつながります。(毎週 2 時間程度)						
成績評価方法・ 評価比率・到達 目標との対応	成績評価方法					評価比率	到達目標との対応
	定期試験					100%	①, ②, ③, ④
成績評価基準	<p>秀：(評点 90 点以上) 到達目標を極めて高い水準で達成している場合</p> <p>優：(評点 80 点～89 点) 到達目標を高い水準で達成している場合</p> <p>良：(評点 70 点～79 点) 到達目標を一定の水準で達成している場合</p> <p>可：(評点 60 点～69 点) 到達目標を最低限の水準で達成している場合</p> <p>不可：(評点 60 点未満) 到達目標に達していない場合</p>						
教科書							
参考文献	筒井義郎, 佐々木俊一郎, 山根承子, グレグ・マルデワ『行動経済学入門』(東洋経済新報社, 2017)						
その他	行動経済学 II を併せて受講することが望ましいです。						